

(1992): ニホンザルのミトコンドリアDNAの地域分化. 霊長類研究, 8(2):214.

- 3) 渡辺邦夫(1992): 老化-幸島群のニホンザルを対象に. 第37回プリマテス研究会, 1992年12月12-13日.
- 4) 浜田穰, 渡辺毅, 渡辺邦夫(1992): 中央スラウェシに見られる自然交雑マカク個体に関する形態学的研究. 第46回日本人類学会・日本民族学会連合大会, 1992年10月24-25日.

## サル類保健飼育管理施設

小嶋祥三(施設長・兼)・松林清明・  
後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子<sup>1)</sup>

平成4年度の施設の概況は以下のようである。

1) サル類遠隔監視システムの予算化がなされ、放飼場を中心にTVカメラによる常時監視、録画が行われるようになった。また、外部からの侵入に備えて飼育室関係のカギの設備が更新され、水銀灯による照明も強化されたほか、夜間の接近者を知りて作動するアラームライトも増設された。チンパンジー区域では、電気錠とコンピューターを組み合わせた入退舎管理システムを設置し、通路の赤外線警報装置や周囲塀の高圧電柵と合わせ、幾重もの脱走防止策が施された。このようにガードが厳重になったことは、所員にとっては煩わしさを増し、放飼場の動物は休日に寝室に閉じこめられるなど、マイナスだらけの結果をもたらすのであるが、動物愛護に関する無分別な行動が存在する以上、止むを得ない措置である。貴重な予算を、このような対策ではなく、もっと動物の環境を豊かにするための施策に使える日が早く来ることを願わずにいられない。

2) 共同利用事業を充実させる目的で、サルの所外供給の試行を始めることが計画され、具体案が作られた。公的機関による飼育下繁殖サルの供給システムのモデルを作り、更に、実験用サルの適切な使い方を所外にも拡げてゆく機会になるよう、細かい検討が進められている。尚、この試行を本格化させ、更に、休日ケアを含む所内サル飼育の一元化や繁殖コロニーの所外移転、ウィルス検査機能の整備など、サルの飼育・繁殖・管理を大巾にレベルアップすることをめざして、センター化構想を進めようとしている。

## 研究概要

### A) サル類の生殖生物学的研究

松林清明

老化に伴う生殖機能の変化を調べるため、特にオスのマカクで組織学的検索を行った。また、精子活性の年令的・季節的变化を見る手段として、ハムスター卵への侵入能力の評価を検討している。

### B) 実験用サルの動物福祉の研究

松林清明

まず、科学的な評価を行う方法の開発をめざし、ケージサイズの違いによる行動特性の変化を解析できる実験システムを試作している。

### C) サル類の花粉アレルギーに関する研究

後藤俊二

ニホンザルにおけるスギ花粉症の自然発症を明らかにするため、血中IgE抗体価や皮内アレルギー反応等を指標とした疫学調査を進めた。また、スギ花粉抗原の人工感作による花粉アレルギーの実験モデルを試みた。

### D) サル類の成長の生理学的及び形態学的研究

鈴木樹理

サル類の血中成長ホルモンの分泌動態を明らかにするために、ニホンザルとアカゲザルについて、連続採血並びに検尿を行なった。実験終了回復後、生体計測を行ない形態学的データを得た。これら成長ホルモンのデータと生体計測データを合わせて成長の解析を行なった。

### E) サル類のストレス定量のための基礎的研究

鈴木樹理

日常的にサル類に負荷されている様々なストレスを定量するための基礎研究として、血中のリンパ球サブセットの割合およびNK活性を定量し、これらの日内変動について調べた。

## 論文

—英文—

- 1) Matsubayashi, K., Gotoh, S., Suzuki, J., Takenaka, O., Mukai, R., Narita, T., Kobayashi, R., Fujimoto, K., Takasaka, M. and Honjo, S. (1992): Viral infection in captive and free-ranging Japanese monkey troops. In: Topics in primatology, 3, (eds. by Matano, S., Tuttle, R.H., Ishida, H. and Goodman, M.) pp.391-397, University of Tokyo Press, Tokyo.

- 2) Matsubayashi, K., Gotoh, S., Kawamoto, Y., Watanabe, T., Nozawa, K., Takasaka, M., Narita, T., Griffiths, O. and Stanley, M. A. (1992): Clinical examination on crab-eating macaques in Mauritius. *Primates*, 33(2): 281-288.
- 3) Sakaguchi, M., Inouye, S., Imaoka, K., Miyazawa, H., Hashimoto, M., Nigi, H., Nakamura, S., Gotoh, S., Minezawa, M., Fujimoto, K., Honjo, S., Taniguchi, Y. and Ando, S. (1992): Measurement of serum IgE antibodies against Japanese cedar pollen (*Cryptomeria japonica*) in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) with pollinosis. *J. Med. Primatol*, 21: 323-327.

#### 報告・その他

##### －和文－

- 1) 鈴木樹理(1993):ニホンザル及びチンパンジーにおける血中GH並びにIGF-1分泌の特徴。平成4年度科学研究費補助金(総合A)報告「霊長類の成長に関する形態学的・生理学的総合研究」, pp14-26。

#### 学会発表

##### －和文－

- 1) 松林清明・後藤俊二・川本 芳・野澤 謙・渡辺 毅・高阪精夫・成田豊子(1992): モーリシャス野生カニクイザルの臨床検査成績。第39回日本実験動物学会総会。講演要旨集, p.138.
- 2) 松林清明・後藤俊二・川本 芳・野澤 謙・渡辺 毅(1992): モーリシャス島カニクイザルの消化管内寄生虫相。第8回日本霊長類学会大会。霊長類研究, 8(2):180.
- 3) 後藤俊二・中村 伸・峰沢 満(1992): ニホンザルのスギ花粉自然感作と寄生虫感染との関連。第8回日本霊長類学会大会。霊長類研究, 8(2):212.
- 4) 鈴木樹理・寺尾恵治(1992): マカクの血中コルチゾル及びリンパ球に見られたサーカディアンリズム。第8回日本霊長類学会大会。霊長類研究, 8(2): 211.

1992年度(平成4年度)サル類動態表

	増加	死						亡	
	出 産	実 験 殺	外 傷 死	呼 吸 器 系 疾 患	消 火 器 系 疾 患	循 環 器 系 疾 患	生 殖 器 系 疾 患	そ の 他 の 疾 患	剖 検 不 能 等
コンツパイ								1	
オオガラゴ								1	
ワタボウシタマリン	14	7	3	2				3	
コモンマーモセット	8							2	
ヨザル	1								
ニホンザル	66	47	3	11	3		1		5
アカゲザル	39	29			1			1	3
タイワンザル	2								
カニクイザル	5	6							
ボンネットザル	4	3			1				
ブタオザル					1	1			
マントヒヒ	2	2							
小計	141	94	6	13	6	1	1	8	8
合計	141	137							

注) (増加頭数) (減少頭数) 差引頭数

141 - 137 = 4 (増加)

1992年度(平成4年度)末飼育頭数

種名	頭数	種名	頭数
コモンツパイ	3	ニホンザル	355
ワオキツネザル	3	アカゲザル	245
オオガラゴ	2	タイワンザル	16
コモンマーモセット	12	ブタオザル	2
ワタボウシタマリン	16	ベニガオザル	2
ヨザル	11	ボンネットザル	13
リスザル	3	カニクイザル	55
フサオマキザル	12	セレベスマカク	2
チユウベイクモザル	1	マントヒヒ	9
ケナガクモザル	1	シロテテナガザル	2
ミドリザル	6	アジルテナガザル	2
パタスザル	1	チンパンジ	10
ミドリザル×パタスザル	2	合計	786